

# アレルギー緊急時対応マニュアル

事業主・制作：香川県小児科医会  
協賛：香川県医師会、日本小児科学会香川地方会

## 子どもに異変？

アレルギー症状かもしれないと考える  
(食物の関与にこだわらない)

### ★発見者(リーダー代行)

- 子どもから目を離さない
- 養護教諭または他の教職員を呼ぶ
- マニュアル・個別対応シートを準備
- 初回の緊急性の判断

原因・責任の追及  
よりもまず行動

「息が苦しい」  
「気持ち悪い」  
「のどがへん」  
「お腹が痛い」  
「かゆい」  
「ブツブツがでた」

## 緊急時の役割分担

★マークの3人は必要！

### ★リーダー(校長・園長)

- 現場到着後リーダーとなる
- すべてを把握する
- 当マニュアルに従い判断・指示
- 内服の指示／介助
- エピペン®使用／介助
- 心肺蘇生・AEDの使用／介助
- 保護者への状況説明

### ★観察係(発見者・養護教諭)

- 症状の観察と緊急性の判断
- 子どもに声をかけ続ける
- 症状チェックシート(別紙)に従い、処置の必要性を判断
- 内服させる
- エピペン®使用／介助
- 心肺蘇生・AEDの使用／介助

## 緊急性が高い症状はあるか？5分以内に判断する！

### 消化器の症状

- 持続する強いおなかの痛み  
(がまんできない)
- 繰り返し吐き続ける

### 呼吸器の症状

- のどや胸がしめつけられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳こみ
- ゼーゼーする呼吸

### 全身の症状

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便をもらす
- 脈を触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

「なし」

どれかひとつでも

「あり」

- その場で内服薬あれば飲ませる
- 可能なら保健室へ移動  
→必ず同伴・できれば歩かせない  
車いす・担架での移動も考慮  
エピペン・緊急薬あれば持参
- 校長・園長に連絡
- 保護者に連絡

### □ 助けを呼び、人を集める (大声で、または他の子どもに呼びに行かせる)

### □ その場でただちにエピペン®使用

### □ 迷うときはエピペン®使用

→ エピペン®使用の手順(裏面へ)

### □ 救急車要請(119番通報)・・・連絡係へ指示

→ 救急車の要請で伝えること(裏面へ)

### □ ショック体位・嘔吐あれば横向き

### □ その場で安静・動かさない

### □ 可能であれば内服させる

反応がない・呼吸していない

心肺蘇生・AED → AED手順(裏面へ)

どれかひとつでも「あり」



### 準備係

- 現場へ必要物品を運ぶ
- エピペン®・内服薬
- AED
- 当マニュアル
- 症状チェックシート など

### 誘導係・その他

- 救急車の誘導
- 他の子どもの対応など

### 記録係

- 症状の観察
- 症状チェックシート(別紙)記入
- 状況に応じて処置の介助 など

## 安静を保つ体位

### ショック体位

ぐったり・意識もうろうの場合  
血圧が低下している可能性がある  
仰向けにして足の下に枕などをいれ  
15~30cm高くする



### 呼吸困難が強く横になれない場合

上半身を起こし  
椅子の背もたれなど  
に寄りかからせる



吐き気・おう吐がある場合  
吐物による窒息を防ぐため  
からだと顔を横に向ける



# エピペン®使用の手順：迷うときは使う！

□ 子どもに声をかけながら、できるだけ複数の教職員で対応する

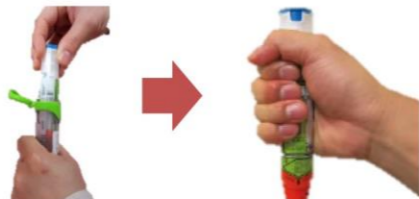
## ① エピペン®を打ちやすい体勢をとる

- 仰向けにねかせる(必要時はショック体位に)
- エピペン®使用者は、子どもの脇に座る
- 介助者は、エピペン®使用者の反対側に座り、右のように、子どもの足の付け根と膝を抑える
- もうひとり介助者がいれば上半身を抑える



## ② エピペン®をケースから取り出して、利き手で「グー握り」する

- オレンジ色を下にして握る
- 握ったら持ちかえない



## ③ エピペン®を打つ位置(★)を確認

自分の位置と反対側の太もも前面外側  
かつ 介助者の両手の中間

- 服の上から打ってよい
- ポケットの中を空にする



## ④ エピペン®を打つ

- 青い安全キャップを上引き抜く
  - オレンジ色の先端を★に軽くあてる
  - そのまま垂直にグッと押しつける
  - 「パン！」と音がしたら、押しつけたまま3秒待つ
  - エピペン®を太ももからゆっくり離す
  - オレンジ色のニードルカバーが伸びていればOK
- ※オレンジ部分が伸びていなければ④をはじめから行う



## ⑤ その後

- 効果は数分で出現し約15分持続
- 注射部位を軽くもむ
- 救急車が来るまで症状の観察を続ける
- 使用済みエピペン®はケースに入れ、病院へ持参する
- (2本目のエピペン®がある場合) 10分後にも「緊急性の高い症状」があれば2本目のエピペン®を使用



# 心肺蘇生とAEDの手順

## 1 反応の確認

- 肩を叩いて大声で呼びかける

同時に

## 2 救急要請 119番

- AEDの手配
- 人を集める

反応がない

## 3 呼吸の確認

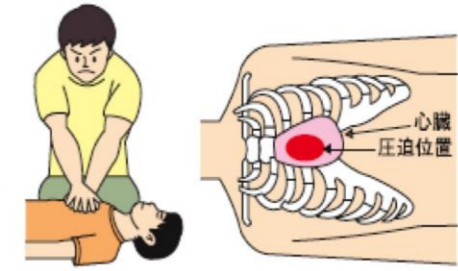
- 胸とお腹の動きを見る
- 10秒以内に判断

普段通りの呼吸をしていない

## 4 胸骨圧迫

必ず

- 胸の真ん中を両手で圧迫
- 強く(胸の厚さの約1/3)
- 速く100回/分
- 絶え間なく(中断は最小限に)



## 人工呼吸

可能なら

- 2人以上で対応できれば実施
- 胸骨圧迫30回+人工呼吸2回
- 鼻をつまんで、下顎挙上
- 約1秒で胸が上がる程度に吹き込む



## 5 AED

- 準備中も胸骨圧迫をできる限り止めない
- 電源を入れて音声ガイドに従う
- 電極パッドを貼る(右上前胸部、左下側胸部)
- ショックの指示があったら、ショックボタンを押す
- 直ちに胸骨圧迫を再開



## 救急車の要請(119番通報)で伝えること

「アナフィラキシーでの救急要請です！」

- 施設名、電話番号、住所 ※事前に記入しておく

個別対応シートを見ながら連絡

- 子どもの名前、性別、年齢
  - 現在の状況、原因わかれば伝える
  - エピペンの有無、使用したかしていないか
  - 私(通報者)の名前、携帯電話番号※
- ※その後も救急隊とすぐ連絡が取れるようにしておく



このマニュアルは東京都および名古屋市発行の食物アレルギー緊急時対応マニュアルを参考に香川県小児科医会食物アレルギー対策委員会が作成しました。